議 長 休憩を解いて再開します。 (10時10分)

受付番号第9号、田代実君の一般質問を許します。登壇願います。

5 番 田 代 議長のお許しを頂きましたので、一般質問をさせていただきます。

受付番号第9号、質問議員、第5番 田代実。

件名、女性の活躍を支援する交流施設等の今後の運営を問う。

要旨、女性活躍総合戦略（平成30年度～令和4年度）では、女性の活躍を支援する交流施設の整備と運営を重点目標に掲げ、令和元年度には旧松田土木事務所を松田町創生推進拠点施設～スプラポ～に改修しました。しかしながら先般発表された令和3年度当初予算の概要には、重点施策への位置づけがありません。一般事務の中の事業名ではなく、重点施設への位置づけがないということです。施設整備は完成後の運営が最も大切ですので、次のことについて町長のお考えを伺います。

(1) 施設利用者数の目標と実績、事業者入室状況（率）と女性事業者の割合。

(2) 女性の雇用創出と創業支援の実績。

(3) スプラポ、クライミングウォール。これは文化センターの西側の壁に設置されてるものです。それらの今後の運営方針についてと。

質問は以上なんですけども、事前に頂いた町長からの回答書。約5ページにわたっております。その中で、効率よく進めるために、半分は前触れになっておりますので、3ページの「1点目の質問にお答えします」と、そこから言っていただきたいと思います。シンプルなやり取りで政策論争したいと思いますので、町長、よろしく願いいたします。以上です。（私語あり）

町 長 じゃあ、少し田代議員の御質問に柔軟に対応して、お答えをしたいと思います。まず少しだけですね、今、スプラポの皆さんたちがどれだけ努力されてるかというのだけちょっと披露させていただきます。今日に至るまでは単純に施設整備を進めるだけではなくて、施設管理者や施設利用者の確保など、様々な課題を乗り越える必要があります、町民の皆さん方にも不安を抱かせてしまったことと存じますが、現在本拠点施設は民間事業者のたゆまぬ努力とノウハウを活

用することで自走することができ、町にとっては年間利用負担金収入が約650万円ほどあり、また利用者にとっては利用ニーズの対応したきめ細やかな質の高いサービスの提供を行っていただいていることから、当初の目的や運営方法などが国からお認めいただき、この松田町の女性活躍コンパクトシティ創生事業については、全国の中でも成功事例の一つとして承認された取組でもございます。それに伴って本施設整備時の総費用について、地方創生交付金等を除く整備費用として、町の負担額は実質約1,500万ほどですが、指定管理者が町へ納付いただく年間の負担金は、約650万円を超えており、町が当時負担した整備費用は、約2年半ほど、令和3年度末をもって投資費用の回収ができ、その後は町が自由に使える歳入となります。

このようなことから、令和3年度も行政と民間事業者と連携した事業を行う予定として、地方創生交付金の申請を行っていましたが、国としては成功事例として認め、国の支援なくして本事業の継続ができると判断され、新年度事業の申請が認められず、民間が主体となって本事業を継続することとなったため、当初予算の計上を行う必要性がなくなりました。よって、民間主体による事業が自走し始めている状況であることを、まずもって御報告いたします。

それでは、1つ目の御質問にお答えをさせていただきます。令和2年度の施設全体の利用目標値では、2万2,275人と定め、令和2年度はコロナ禍でもありますが、現在までの実績を見ても2万6,631人となり、目標値は達成されております。そのうち女性の利用者数ですが、統計はありませんが、各事業者からの確認では、おおよそ全体の6割以上を占めてると伺っております。施設の事業者入室状況（率）については、使用者が決まっている延べ床面積で換算すると約86%となっております。また、その事業者のうち、女性経営者が営む事業は、9テナント中2事業者となっております。

次に、2つ目の御質問にお答えをいたします。まず本事業における女性の雇用創出の実績については、スポーツジムのほか9人の実績があり、創業支援の実績としては2件となっております。

次に3つ目の御質問にお答えいたします。令和3年度については、コロナ禍

において女性創業等の希望者の動きも活発ではなく、マッチングを行う機会が非常に少なかった状況でもありました。今後の運営については、指定管理者の選定時にも御説明させていただいたことですが、事業者がさらなる自走と地域連携した取組を含めて進めていくためには、我々行政が伴走方として相互支援を行う必要がありますので、事務的な部分では今後も事業者と毎月1回の定例会を行い、事業運営方法などに伴う課題やその解決策、収支状況等を確認しながら、引き続き必要な見直し等があれば改善を行ってまいります。また、子育てをしながら、安心して働ける居場所や子育て世代の方々が集うコミュニティの場として、女性を中心とした多くの皆様方が活用していただけるよう、さらなる情報発信の強化と地域との連携についても実施してまいります。

現在の指定管理者の新たな取組として、新しい日常による生活や仕事の様式の変化に対応すべく、コワーキングスペースというテレワークができるスペースを確保し、また県の補助金事業を独自に獲得され、屋上スペースを新たな用途に使えるようにするなど、積極的に施設の魅力アップに努められていますので、今後女性・男性にとらわれず多様性を認め合い、あらゆる分野で双方が活躍するために必要な事業として、民間事業者の主体的な取組を尊重し、本事業推進による町の魅力向上を図ることで、生産年齢人口の増加につなげてまいります。

次にクライミングウォール施設についてですが、平成30年4月から町民に限らず広く使用していただいております、また各種教室等を開催し、活用促進を図ってまいりました。実績としましては平成30年度が93件、令和元年度が45件、令和2年度が7件となり、合計145件となっております。そのほかスポーツ庁所管補助事業の関連で、健康スポーツ教室を開催し、令和元年度12回、令和2年度はコロナの影響もあり4回でありました。

これまで利用者拡大に伴う施設の活用促進を図る目的で、初回無料として運用させていただいている中で、民間事業者より有料による事業開催の相談をいただくなど、新しい展開を期待しておりましたが、昨年からのコロナ感染症対策のため実施に至りませんでした。また今後の運営方針につきましては、令和3

年4月より松田町生涯学習センターとして複合的な施設の管理運営となることから、その一部のクライミング施設利用を今後強化するため、秦野市さんとの相互協力により、秦野市戸川公園内に新たに設置されているボルダリング施設との連携し、新たな利用者を確保するなど、運営面の強化を図ってまいります。今後は定期的なイベントの実施や専用のホームページの発信、新たなにぎわいづくりを図り、施設の認知度アップにつなげ、多くの方々が利用できるよう取組を進めてまいります。併せて民間ノウハウの導入に関する取組を実施してまいりますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

5 番 田 代 　ただいま町長、いろいろ私の要望にお応えいただき、コンパクトな回答、ありがとうございます。はっきり焦点が見えてきたので、順に質問をさせていただきます。

　初めに自走できる施設、独立採算制で一般財を投入しないよということは、もう町長の初めからの当初計画の主張されてた内容で、このことに対しては実際達成してるということは十分認識しております。ただ、やはりこの施設については、こちらの女性活躍総合戦略、これではっきり位置づけたものです。女性の活躍を推進支援する拠点施設を整備すると。併せて女性の創業者ですね、事業者を育てるよと。あともう一方で子育て支援。この辺で女性に関する機能を強化して、働く場の創出を行いたいというふうなことが大前提にあると思います。

　その中で今おっしゃられるように、運営については私、採算面の運営について今回一般質問の項目に入っていないと思います。それはそれでしっかりした形で運営はされてるというふうに認識しております。今回議題として挙げらせていただいたのが、やはり重点施策として今までやってきたわけですよ。それがここに来てトーンダウンしてるのかなというふうなことを感じて質問させていただきました。これからの質問については、計数は課長職で結構です。政策論については町長、回答をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

　まず初めに1点目、施設利用者の目標と実績ですか。これについて利用目標値2万2,275、これが実績では2万6,631ということになってると伺いましたけ

れども、これについて、これは課長さんにお伺いします。計画では現状、平成29年、5,439人というのは、この計画の中で鈴木課長、示されてますよね。これの内訳、それがまず1点目です。

次に2点目。2万2,275、これの内訳。要は子育て支援センター、ファミサポあたりの数がかかなり占めてると思います。実際にどういう方が利用されるかというのを、2種類に分けてください。それが2点目です。そうですね、実績が2万6,631ですから、これでも結構です。目標達成してるんでよろしい数値かなと。

3点目が空き室状況。率で86%となっております。回答では9テナント中2つの事業者が女性経営者が営む事業と。9分の2ということですね。実際にこれ、空きテナントが幾つあるのかね。86%の床面積で部屋が入ってることなんですけど。逆にテナント数で言うと全テナントが幾つあって9テナント今入ってる。そのうち2事業者が女性経営者が営む事業というふうに理解させていただきますので、その辺の計数について課長お願いいたします。

政策推進課長

まずですね、女性が輝き活躍するコンパクトシティの利用の目標数値でございます。最初に定めた2万2,275人というのがございます。利用者数の2万2,275人。これにつきましては国のほうに提出したKPIがございます。子育て支援センター利用者数が6,700人、ファミリーサポート利用者数が200人、当時の計画では一時預かり利用としてカフェやサロン等におけるものが9,000人、スポーツ施設利用者については6,000人、コワーキングスペース利用者については375人という数値をもとに、当初の2万2,275人という目標数値を掲げてございます。

これにおきまして、令和2年度の利用者数でございますが、これは1月末現在で2万6,631人という数字になってございます。この中で当初の子育て支援センターが6,700人という目標だったんですが、これはコロナ禍の影響としてはこれはいけないのかもしれないんですけども、子育て支援センターは2,962人というすごい低い数字になっている状況ではございますが、それ以外の部分、スポーツセンタージム等につきましては、以上の3倍近い人数が来て

いるということで、今回2万6,631人という実績になっているところでございます。

そして、テナントスペースにつきましては残りは3件でございます。全部で12件ございますが、そのうちの9件が今入っているところでございます。そして9件のうち今2つの事業者が女性の経営者というところで報告をしているところでございます。

5 番 田 代 29年の現状、5,439人、このバックデータ、内訳。計画の中に現状って入っているんです。5,439。ここです。ここの数値。これは何の数字なのか。

政策推進課長 すみません、そこはちょっと私のほうも数値として確認してなかったの、後ほど報告させていただきたいと思います。

5 番 田 代 平成29年の現状、5,439人。これは私、察するところ、子育て支援センターとファミサポの利用人数がこの数字ではないかなというふうに感じてます。この時点ではこれ以外の施設は全てスタートしてないということで、そのように理解させていただきますので、もし違っていたらお知らせください。

では、ちょっとチャンネルを変えさせていただいて、今の子育て支援センター、ファミリーサポートセンター、これについて伺います。平成30年の秋に総務文教常任委員会にこの拠点施設の設置及び管理条例が付託となり、かなり審査をさせていただいた記憶があります。その一員として私も総務文教常任委員会に入っておりました。そのときにはっきり記憶があるのが、子育て支援センターって1階じゃないの。何で2階なんですかって質問をいたしました。そのときに、いいですか、課長。そのときに利用者に聞いたんですよと。2階のほうがいいですという回答でした。それなら仕方ないなということで、私はそれから発言控えました。ところが利用者に聞いてみると、この1年ぐらい前からです。コロナが発生する前からの話ですけど。何で田代さん、2階なのって。私なんかまだ子供が1人だから、雨の日、傘とベビーカーを持って何とか上がれる。2人、3人のお子さんのこと考えたことがあるのって。すごい不自然な施設だと言われました。ですから、計画時に審査委員会でそちらが、当時課長補佐だと思うんですけど、この回答をされてます。場合によっては議事録で確

認されて結構です。私ははっきりメモとってあります。実態として利用者から苦情が出てるんですよ。そのいきさつについて、まずひとつ確認させてください。利用者が多いことはいいんですけども、やはり今回計画から実施まで半年足らずの間で行ってしまった事業です。そういう中で、せっかく利用されてる施設が、そういうことを後で聞くと、非常に私は残念だなというふうに感じますので、課長、お願いいたします。

政策推進課長 御質問ありがとうございます。この事業につきましては、毎月1回定例会がございます。そこに子育て支援センターの代表者の方等とも踏まえてですね、町の福祉の担当も入っていろんな聞き取りをし、今後の改善を進めてるというところで、意見をもらってる中で、現状ですね、今、田代議員のおっしゃったような意見がですね、ちょっと今なかったという定例会の報告を受けております。これは始まったときから毎回やってますので、今そういう意見があったということで、これは毎回の会議の中で調整というか、そういう意見があったということをお知らせし、皆さんのほうと連携をして取り組んでいきたいというように考えてございます。以上です。

町長 これもまた記憶ですけどもね。私は報告もらってる話でいくと、2階に何でしたのかという議論は当然あった記憶があります。それでやっぱり防災面のことがあったりだとか、災害のときに、やっぱりあれだけ畳を敷いたりするわけですから、地域の方々も防災の関係で使いたいという要望もあって、そういったときには2階のほうがいいだろうということで2階にした、一つの案としてですね。提案したのがあります。先ほど言われるように、ベビーカー持ってとか、じゃあベビーカー置く場所どこにするのよとかっていう多分議論もあって、1階のところにこの辺にベビーカーを置くところの示しを、ここだったら置いてくださいというのと、あとは連れていくのは大変だからっていったら、インターホンをつけて、今来てるんでどうですかっていったら、上から降りてきてもらったりとかっていう、物理的なのはもう箱があってね、エレベーターもなかったものですから、しょうがなかったですけども、今あるもの生かしてやるってなれば、それが一つの手法だということで、その後の設備としてインターホ

ンをつけたりとかして対応してるということもあります。ただ、今、課長が言われてるように、今現状そういったお話もあるということであれば、そういったことを踏まえながら、またよりよい、利用者にとっていいことかどうなのかということをもっとよく相談してですね、対応してまいりたいというように思います。以上です。

5 番 田 代 丁寧な回答ありがとうございました。いろいろ議論があって、今の町長の説明の災害時というのは初めて私伺いました。スタートしてしまった事業だから仕方ないというよりも、やはり利用されてる施設で駐車場も広くなって、非常に主婦の方止めいいという好評な面もあります。したがって、今インターホンでそういうふうな形でフォローしたよということありますのでね、ほかにもたくさんそういった問題出てくると思います。ですから、私は重点施策に位置づけて、もっと手厚く運営するべきなんではないかというのが今回の主張です。

ここで町長にお尋ねします。今、担当課長から全部で12件テナントを用意したよと。そのうち9件入ってます。そのうち女性が2件。この2件というのは非常に少ない数字ですよ。全部の分母を12でした場合、12件のテナントに対して2件しか入ってない。実際入ってる9件に対して2件。先ほどお話ししたように、採算性とか自走式はもう大いに結構だと思います。しかしながら女性を一つの政策のポイントに掲げた中で、非常に少ない。これについて町長、どういうふうにご検討されているのでしょうか、現状を見てるのでしょうか。お願いします。

町 長 まず第一前提に、女性の輝く、活躍するということは、当然あるんですけども、あるんですけどもという表現。その輝き方。どういった立場で輝くのかというのは、もうそれぞれだと思うんですね。その中でやはり創業者として輝き方をする人もいれば、その会社に勤めてるという、勤めながらやっていくという人もいますし、むしろこのテナントを利用して何かやろうという人ばかりではなくて、当然だけど家でやろうという人、様々な方々がいらっしゃって、様々な輝き方があるということは大前提だというふうに思います。ただ、その輝き方の輝くチャンスをしたりとか、きっかけつくったりするのが今回の一

つの事業ということも考えていることからすれば、それはこのテナントに事業者として入ってくれる方が増えるのは、こんないいことはないですね、おっしゃるとおり。しかしテナントで入るとなれば、それ相応の覚悟もいりますし、資金もいりますし、いろんなことがあります。ですから、そういったところからすると、あの団体というか、今指定管理になってる団体は、足柄マルシェというものを主催してる会社ですから、テナントという形で固定で持たずにでも、そういった場所場所で事業をやられてる方々も当然いますし、そういった支援は今現在もやられてるというふうに私も理解をしておりますので、このテナント数が2つしかないからどうこうというような答えよりも、まあそれは全て収まるのが一番いいでしょうけども、それぞれの考え方があるんじゃないかなろうかというふうに私は判断してます。以上です。

5 番 田 代 去年の12月24日に議会に定期監査の結果ということで頂いております。監査委員さんから頂いた文書です。女性が輝き活躍するコンパクトシティ創生事業については、事業の趣旨や効果等について検証されたいと。今、町長は別の見解な感じでお答えされたんですけども、事業の趣旨、効果、これについて私は薄いのではないかと。所期の目的にしっかり位置づけたものが、いつの間にか自走はしてる、でも女性の事業者は本当に少ない。テレワークで自宅でとか、そういうのありますけれども、やはりここを拠点に女性の創業支援をしていく。それとあともう1点が雇用の創出。女性の雇用の創出という話をされてました。そういったことで監査委員の指摘と私のそれを含めた質問。これについて町長、再度お答えをお願いします。

町 長 監査委員の御指摘は我々も承知をしているところであります。「ただ」という接続詞がいいかあれでしょうけどもね。施設利用者がやはり女性の方々がやっぱり増えてる。その利用者の利用の仕方というのは、テナントに入ることばかりじゃないだろうと思いますし、普通の一般の利用者で、今までなかったところに参加されてるということで、先ほど子育て支援センターについても、行く場所ができてよかったという話も一方ではあるわけですから、その辺りは監査委員さんともよくよく話をしながらですけどもね、当初の目的っていう、私

の考え方は、女性の輝き方というのは多種多様でたくさんあって、それぞれにやってるわけだから、この施設の利用者だけを…利用者というか、テナントに入ったり、雇用の創出に少しずつ、少しずつですけどね、一遍に起きたところがどんというところまで行けてないというのは、ちょっと私たちもう少し力を入れていかなきゃいけないということは、当然理解はしてるので、改善点を改善しながらですね、いいところはいいとこで伸ばしていきながらというふうな施設運営、もとはあこの事業にしていきたいとは考えてます。以上です。

5 番 田 代 代ではその件に関して再質問させていただきます。先ほどお話しした平成30年の秋口の総務文教常任委員会のやり取りです。この中で、特に期間は10年間。今の施設は平成31年度から10年間を目標に運営していくよと。その中で今お話しがあった、女性の雇用創出とか創業支援、これに重点的に取り組むとともに、子育て支援センターですか。この機能も拡充してあちらに移すというのが大きい柱でした。ここで伺いたいのが、10年間の間に、あの施設で入った方を町内の駅前の空き店舗、それに誘導していくんだって、そういうことをはっきりと説明もありましたし、資料も残ってます。そういったことに取り組む姿勢。これについて非常に女性に限らず、いろんな事業者が入ってます。今度地域の活性化という捉え方で、今女性にちょっとクローズアップしましたけどね。少し拡大解釈の中で、いろいろな業者も入ってると思います。そういった方にあの施設は補修事業して耐震性も行ったけども、とにかく古いということで、10年を期限として運営するという説明を受けてます。その中で、もう2年が終わろうとしています。どのように中心市街地の活性化、それに結びつける対応をされたのか。それについて伺いいたします。

政策推進課長 田代さんの御質問にお答えさせていただきます。まず旧土木事務所ですね、原則10年というものがございました、当時。売買契約の定義の中に10年間はほかの用途に使わないということで議論させていただいたのがございます。そうした中ですね、その間について5年間の指定管理者との契約を結ぶということで、その後、議会の皆様と協議をし、5年後どうするのよというような話もございました。そこは5年を見て、経営状況を見て、そのまま継続するか、ある

いはその次の展開にするかということで、私のほうから説明をさせたような状況でございますので、このままですね、5年間の契約の中で運営を進めていくということで、今はですね、その10年先どうするかということは、その当時の話もありましたが、今のところは…。

5 番 田 代 あと創業の取組だよ。駅前市街地に誘導する取組だよ。それやったかやらないか。

政策推進課長 現在もですね、この女性活躍の事業を展開してございますが。その中で駅前周辺の整備についての、いわゆる起業家に向けての様々な取組の講演会等をやっておりますので、そこが形には今結びついておりませんが、そのような事業展開をしているということでございます。以上です。

5 番 田 代 回答ありがとうございます。前向きに取り組んで、駅前のほうの空きテナントに誘導する努力もしてるということによろしいわけですね。はい、ありがとうございます。

それでは3点目。時間がだんだんなくなってきましたので、クライミングウォール。平成30年からオープンしたということで、実績として30年度が93件、元年度が45件、令和2年度が7件と。令和2年度はコロナの影響かなという感じもしますけれども。93と75、すごい多いなと思います。私はクライミングウォールについてこれ、質問してます。ボルダリングが入ってるわけではないですよ。私はそれだけ多いっていうふうには、見てて感じなかったんです。この数、いかがでしょうか。

教 育 課 長 ただいまの件数につきましては、スポーツクライミング総数としまして御報告させていただいたものでございます。議員おっしゃる平成30年度、93件中リードウォールにつきましては1件。令和元年度45件中、リードウォールは1件。令和2年度、総数7件のうち、リードウォールは0件という状況でございます。

5 番 田 代 明確な数値の報告、ありがとうございます。遠藤課長ね、クライミングウォールの施設についてって私は言ってます。これは水増しです。ボルダリングは今回もタウンニュースで見たんですけど、地道にやられるというのは認識してます。ただ、クライミングウォールは外ですからよく見えますから、結構

気にして私ずっと見てたんですよね。今の話、30年度が1件、元年度が1件。課長御存じのように、幾らかかってあの施設を造ったか。全部でボルダリングも合わせて1億円ぐらい投資してるはずですよ。そのうちの半分が外のこのクライミングウォールの壁です。5,000万円以上使って今まで2件。あまりにもちょっとこれは寂しい数字だなと思います。

町長ここで伺いたいのが、この施設ができたときかなり町長は力を入れていろいろ発言されてました。この結果っていうのは、今回のコロナの影響はもう度外視していいと思うんですよね。逆にコロナだから外だから、宣伝の仕方によっては、今までの1件、1件よりももっと増えたのかな。少数で行うクライミングウォールはそういうスポーツですから。それなのにこの数字というのは、要するに投資した額に対して実績があまりにも寂しいのかなと感じます。この件に関して町長、回答をお願いします。

町長 おっしゃるとおりですよ。実際この投資した額の内訳を本当はよく話をしないといけないんですよ。要はこのリードクライミング自体を設置するに当たって、当然外壁の補修をしたりだとか、当然そこに伴う様々なことをやって、合計その工事だけで約5,000万というふうな数字が出てるわけですけどもね。そこはもう田代議員も承知してあるのでこれ以上言わないですけども。ただ、いかんせん、ボルダリングもそうですけどもね、徐々に増えてきてますけど、やっぱり外の高いやつに使いたいという方々については、やはりうちの単価設定がまずいのかなっていう気も正直してます。多分、皆さん方と御議論いただいて、民業圧迫しちゃうといけないということで、金額を下げないでというか、そういうふうになっているところもありますし。それだけじゃなく、あとはやっぱりどうしてもPR不足も本当たくさんあるかと思います。だからそういった点をやっぱり反省点として、先ほどちょっと答弁で申し上げたとおり、やはり県西地域に秦野市さんがあれだけお金をかけて、追加でボルダリング施設というかクライミング施設をまた造られたものですから、そこと連携してですね、やることによって、相乗効果が生まれていくのではなかろうかというふうに期待をしてるところであります。ですから今後、この取戻しというかですね、一

般の町民の人たちから、無駄な施設だと言われなくて済むように取り組んでまいりたいというふうに思ってます、以上です。

5 番 田 代 御回答ありがとうございました。私、女性の活躍する交流施設をメインに質問した次第なんですけど。このクライミングウォールについても同じなんですけれども、立派な施設は造った。先ほどお話ししたように、クライミングウォールは5,000万以上、それと女性の交流施設ですよ。これについて6,000万以上だと思います。両方で1億1,000万以上のお金を投資してます。クライミングウォールはわずか2件。コロナの影響は関係ないです。一方のスプラボですか、創生推進拠点施設。これについては所期の目的はまだかなりほど遠い状況にあります。両方とも重点事業から外れてます。やはりそれだけのお金をかけて投資した事業であれば、魂を入れてその利活用に励む。民間企業だったら、それだけ突っ込んでお客が来なかったら倒産してますよ。だからそういう面では、たとえ額は少なくとも力を入れてやっていく。町長も秦野市との連携、これ、前にも言われてました。ところが施設が完成したらその言葉は私はあまり聞いてないような感じで、たまたま今回質問したらそういったお言葉が出てきたと。要は言いたいことは、どんな立派な施設をお金をかけて造っても、あとで運営する職員、またはトップの理事者のお考えがね、それに対しての思い入れがないと伝わらないと思います。うまく運営できないと思います。この件に関して時間もなくなりましたので、最後町長、御答弁をお願いいたします。

町 長 おっしゃるとおりですよ。実際これが…まあそうだな。こういった事業を絡めながら、松田町がとにかくやらなきゃいけないことが、ずっと後回しにされてきたという事実があるのは御存じのことだと思います。ですから、この地方創生の費用というのは、松田町にとって知恵を本当に役場の職員が出して、何とか予算を獲得し、御存じのように半分が国の補助金です。でもこれは税金です。ですから、その税金も含めて無駄にするつもりはさらさらありません。ただ、急に今までの思考回路を変えてですね、松田町の職員さんたちに、というところに関しては、今現在進行中で、それぞれに思いを込めてやってくれてるだろうというか、やってくれるはずだという思いの中から、職員育成も

含めながら今やってるところでございます。温かく面倒見てくれというようなことは言いませんけども、それなりに結果も出してるようなところもありますから、総合的に物事を考えていただければと思います。今後も今日田代さんから言われた話は、遠藤課長もよく肝に銘じられたと思いますから、一緒に今後進めてまいりたいというように思います、以上です。

5 番 田 代 最後一言だけ申し上げて終わりにいたします。ちょっと今、町長の発言で気になったのが、今まで松田町がやらなければいけなかったのを後回しにしてきた結果。だから本山町長がやってるといふふうに私は聞こえてしまいました。でもそれは今、町長が予算で受けてやってるんです。ですから…（私語あり）待ってください、私が発言してます。ですから魂を入れて、職員がかわいそうだとかそうではなくて、町長のリーダーシップでしっかりと運営について取り組んでいただきたいと思います。以上で終わります。

議 長 以上で受付番号第9号、田代実君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。11時より再開いたします。

(10時51分)